

(仮称)

ゆきのさと自由が丘通信

《2020年4月、小学校開校をめざして》

認定NPO法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会 / 「自由な小学校」をつくる会
札幌市豊平区月寒東 1-15-5-11 ☎(011)858-1711

自治体へのアプローチ、B町へ

11月1日(木)に、吉野、綿谷、細田でB町役場へ、自由な小学校の構想説明・廃校舎貸与願いに行ってきました。できれば直接町長さんにとおりましたが都合が合わず、役場の政策推進課の4名の方々に対応していただきました。当方3名の趣旨説明後の質疑では、通学や地域ホームステイ・寮について、空く予定の各校舎のこと、学校施設のメンテナンスや学校経営の見通し、教育現場での「グレイゾーン」の子の扱いなど、いろいろなことが話題に上り、「共感」的な雰囲気でした。今後は、内部調整のうえ、改めて連絡をいただくことになりました。その後、11月中旬にはB町の町づくり構想と連動した提案書「『総合計画』に位置付ける初等教育のあり方」を追加提出しております。今後については、メールでのお返事あり、具体的な場所の検討も含めて話し合いを続けていくことになっています。



「自由な小学校づくり」説明・報告会

11月17日(土) 14:00~16:00 スミタスプラザ宮の森で本年第8回目となる「自由な小学校づくり」説明・報告会を行いました。11月で閉じて移転のため、この場での説明会は最後でした。説明会には約60名(お子さんを含めると80名



ほど)の方々が、遠くは網走、帯広、七飯、旭川などから参加してくださいました。初参加の方が多く、後半は複数回参加者が各グループに入り、様々な立場から「なぜ、この集会に参加したのか?」「どんな大人に育ってほしいか?」「望む教育は?」というテーマで、自由な学校設立に対する期待



を熱心に語っていただきました。全体共有の中で、現代の学校や社会の生き苦しさ、ルールが敷かれゴールありきの教育への疑問、小学校が選べない現状などが話され、やりたいことをやれる選択肢や時間を子どもたちに保障すること、協同の大切さ、民主的でクリエイティブな活動ができること、スタッフ同士のかかわりが大事で大人が楽しく生きていなければ子どもも楽しくならない、というような話題が出ました。また、参加した一人のお子さんから「大人の期待がちがってる、自分のやりたいことをやれることが大事」との発言もありました。時間がまだまだ足りないくらい話題の尽きない雰囲気でしたが、署名をはじめ今後も活動を継続し自由な小学校設立を実現していくことを確認して終わりました。参加者のご感想からいくつか抜粋でご紹介します。(紹介しきれない分は次号で)



- …小学校に通わせることが嫌になる程、従来の公教育には多くの疑問を感じていました。…知れば知るほど私が求めている教育はこういうものだと感じました。…
- …七飯町で、新しい学校(きのくにモデル)がつかれないか、と妄想中。来週きのくにシンポジウムにも参加します。…
- …十勝と少し遠いけど、本当に、とてもとても!! 魅力的で、ますます興味がわきました。…
- …自己肯定感が低く…どんな理想があっても、自分が育てられたようにしか子に接することができない…素敵な学校があることはとても有りたく素晴らしいですが、親子、家族とともに成長していける場、コミュニティやつながりを意識した環境づくりへと広がっていかたいなと考えました。…
- …公立学校での疑問が多く(つめこみだったり、全てが決められていたり)不安や不満がありました。自由な学校ができ子どもがノビノビ楽しい学校・周りの大人もキラキラしていたらきっと生きるのが楽しくなる…
- …「自由な学校」の意味が更によくわかりました。ぜひ、1校つくりましょう。…

また11月25日(日)には岩見沢の上幌会館での「プレーパークの会」お泊り会の2日目に、細田がお邪魔して、説明座談会をしてきました。20名ほどの方々に紙資料での説明後、質問・ご感想をいただきました。めざす学校ではスタッフの力量が問われること、既存校でのいわゆる「受験教科」以外への意欲の低さ、発達障害のお子さんの「きのくに」での対応や、授業料の高さへの懸念などが話題に上がりました。参加者の関心や期待も高く、貴重な機会となりました。



「きのくに子どもの村学園」訪問について

11月22日(木)訪問は、偶然に学校づくり支援者の金澤さん親子と一緒にすることが事前にわかり、共に(細田夫婦も)見学をしてきました。金澤絵里さんの感想を紹介します。

「時間割を、クラスのみんで話し合っ決めて」小学校に入学して一ヶ月位が過ぎた頃、息子が言いました。「自分で決めたい」ではなく、「クラスのみんで話し合っ」というところに、話し合いを大事にしていた保育園で培ったものが、この子の中に育っているのだなあと感動しました。次の日「先生に言ったら、だめだって」と沈む息子の顔見ながら「やっぱりね～」と心の中で思いました。しかし、「お母さん、時間割を自分たちで話し合っ決めてられる学校を探して」と言われ、子どもって前向きだなあと驚きました。

そんな事があり、ネット検索して出て来たのが、「きのくに子どもの村学園」でした。『きのくに子どもの村の教育』という本を読み、「ああ、求めていた学校がここにある」と感動しました。が、場所は和歌山、山梨、福岡。息子がこの学校に通うには、仕事を辞めて転居するか、子どもが寮に入るしかない。息子に「お母さんは、今の仕事が好きだから辞めたくはない。あなたが行きたいと言っていた学校に通うには寮に入ることになる。」と話すと、「寮ってなに?」との返答。説明すると、「今は、お母さんやお父さんと離れたくない」と言われ、どこかホッとしつつも、これでいいのだろうかと思ふ日々が始まりました。「今は・・・」ということは、「いずれは、本当は行きたい」ということなのではないか……。検索を続けていたら、きのくに子どもの村学園の様な、自由な学校をつくらうとしている方々が北海道にいることを発見。連絡すると、説明会に来て頂けることになり、保育園の保護者仲間の協力のもと、銭函で説明会を開催。息子は、細田さんが見せてくれたきのくに子どもの村小学校の映像を見て「かもめ(保育園)みたい。こんな学校作るなら、おれ手伝うよ」と言いました。

すっかり前説明が長くなりましたが、小学2年生になった息子と、実際にきのくに子どもの村小・中学校を見学してきました。校舎は、趣のある木造で古め。子どもたちは、見学者に慣れているようで、はしゃぐ事もなくプロジェクトの仲間たちと自分のすべきことを、いつも通りに取り組んでいるという感じでした。「ずっと、休み時間かと思った」と息子が言うように、授業の緊張感みたいなものがまったくなく、穏やかな時間が流れていました。

プロジェクトのミーティングの様子も見学させてもらいました。司会・記録も子どもで、大人も一員として意見を出していました。来週からプロジェクトで、やりたいこと、やらなければならないことを話し合っいて、小さい子も手をあげて意見を言っていました。皆、話し合いに慣れているという印象を受けました。昼は、事前に予約していた子どもたちが作ったカレーライスと、喫茶「カーペンターズ」で食べました。運営は子どもたちでやっていて、いつもより見学者の人数が多いからか、出し忘れたりもしながら頑張っている姿が微笑ましかったです。

学園長の堀真一郎さんからもお話を聞きました。先生たちは忙しいが、市販のプリントを使ったらクビだそうで、教材を作る楽しみや喜びを得て頑張っている事、注意する感覚を持たないように気をつけている事(「急がないと間に合わないよ」ではなく、「急げば、間に合うよ」というように)。その他、「ある程度、不自由な方が子どもは工夫する」「自分で成長・発達を練習するのが教育」「より自由になるために規則を作る」等、改めて「そうだよなあ」と思うことばかりでした。



私が一番見てみたかった「全校ミーティング」も子どもたちの了承を得て、見学させてもらえました。「スマホを寮に持ってきても良いか」という内容で、様々な意見が出されていましたが、司会の子の言葉遣いが優しくて驚きました。さらに「〇〇しない方が良い」は、むっちゃ反対という言い方になってしまうので「〇〇しなくても良い」という言いの方が良いのでは・・・という子どもの意見を聞いて驚きました。なんて言葉を大事にしているのでしょうか。確かに受ける印象が違います。きのくに子ども

の村学園のパンフレットに「・・・内容によっては、シーンとしてしまうことがあります。そんなときは、大きい子が意見を出します。その意見を聞いて、小さい子も意見を言い、話し合いが進みます。小さい子が大きくなったら、同じようにお手本になっていくと思います。だから、子どもの村のミーティングは大切だと思います。」と子どもの声がかかっていましたが、実際に見て本当にそう思いました。「これを毎週やっているなんて、すごい」心底驚きました。

正直、今すぐにでも息子を通わせたいと思った学校でした。ちなみに息子は「そりゃ、こんな学校に行きたいに決まってるでしょ。でも、寮は嫌。自分は料理のクラスも良くて迷うけど・・・トンカチ持って作るクラスがよいな」と言っていました。こんな学校、北海道に作りたい。見学してみて、やっぱりそう思いました。

